

JILPT 調査

働く人の職業能力開発の現状と意識

——就業実態と勤労生活に関する定点観測調査結果から

JILPT 調査・解析部次長 郡司 正人

勤労者は、学び、自らの能力を向上させることについて、どのような状況にあり、どういった意識を持っているのだろうか。JILPTでは、日本人の働き方の実情を体系的、継続的に把握することを目的とした「日本人の就業実態に関する総合調査」と、将来のキャリアなどの職業生活をはじめ、勤労者の意識について多様な側面から尋ねた「勤労者生活に関する調査」を定期的実施している(注)。二つの定点観測調査から、働く人の職業能力開発の現状と意識を見てみよう。

能力開発の状況

働く人たちが、能力開発や自己啓発について、どのような状況にあるのか、「第2回日本人の就業実態に関する総合調査」の調査結果から紹介していく。

6割の人が上司・同僚の指導・助言に肯定的

企業に雇用されて働いている人（雇用者）に対して、現在の勤務先での能力開発の状況について聞いたところ、「会社は社員の能力開発に熱心である」かどうかでは、『肯定派』（「当てはまる」と「やや当てはまる」の合計。以下同じ。）が58.2%と、『否定派』（「当てはまらない」と「やや当てはまらない」の合計。以下同じ。）の39.3%を上回っている。「上司や同僚は仕事上の指導やアドバイスを積極的に行ってくれる」についても、『肯定派』が60.7%と、『否定派』の37.1%を上回った。「仕事の幅や知識・経験を広げる機会が多い」につい

ては『肯定派』が53.7%で、『否定派』が43.9%。「マニュアルやノウハウ集が整備されている」については『肯定派』が52.9%、『否定派』が44.7%、「社員からの業務改善の提案や自主的な勉強会が活発に開かれている」については『否定派』が54.5%と『肯定派』の43.2%を上回っている（図表1）。

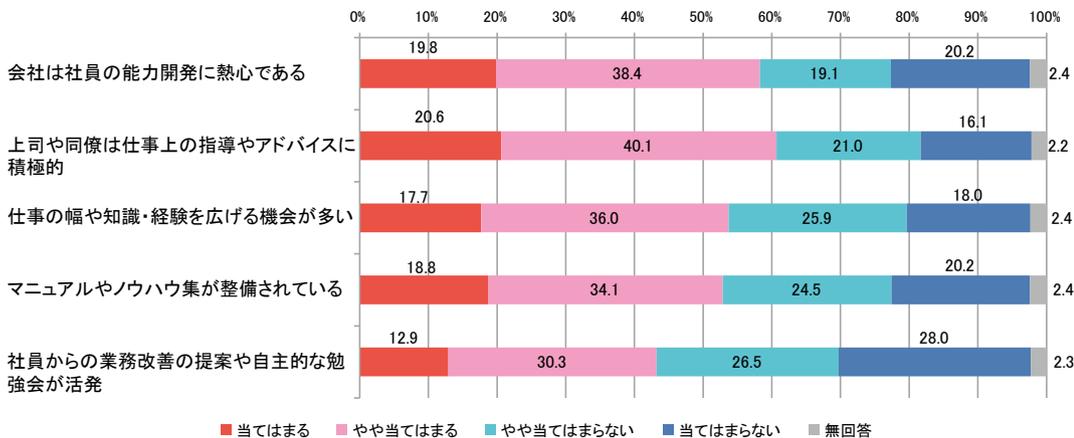
教育訓練の状況

4割がOff-JTを受講

雇用者に対して、過去1年間の会社の指示による教育訓練(Off-JT)の受講状況を聞いたところ、「受けた」が40.4%、「受けなかった」が58.6%となっている。これを、性年齢階層別に見ると、Off-JTを受けた割合は、男性20歳代が49.3%と最も高く、次いで男性30歳代の48.4%、男性40歳代の47.9%、男性50歳代

で47.0%、女性20歳代では41.8%などとなっている（図表2）。この結果は、正規の職員・従業員（正社員）の割合が男性で高いことが影響していると思われる。雇用形態別では、「受けた」とする者は「正社員」で49.6%と約半数を占め、次いで、「嘱託」

図表1 勤務先での能力開発の状況 n=3,104



資料出所:図表1～14「第2回日本人の就業実態に関する総合調査」

図表2 会社での教育訓練 (Off-JT) の状況

	受けた	受けなかった	無回答
総数 n=3,104	40.4%	58.6%	1.0%
男性・20代 n=219	49.3%	49.3%	1.4%
男性・30代 n=370	48.4%	51.1%	0.5%
男性・40代 n=413	47.9%	50.6%	1.5%
男性・50代 n=353	47.0%	51.6%	1.4%
男性・60代 n=191	26.2%	71.7%	2.1%
女性・20代 n=261	41.8%	57.5%	0.8%
女性・30代 n=364	33.2%	66.2%	0.5%
女性・40代 n=443	38.4%	61.2%	0.5%
女性・50代 n=354	34.5%	65.0%	0.6%
女性・60代 n=136	22.1%	75.7%	2.2%

図表4 会社での教育訓練 (Off-JT) の状況 (正社員のみ)

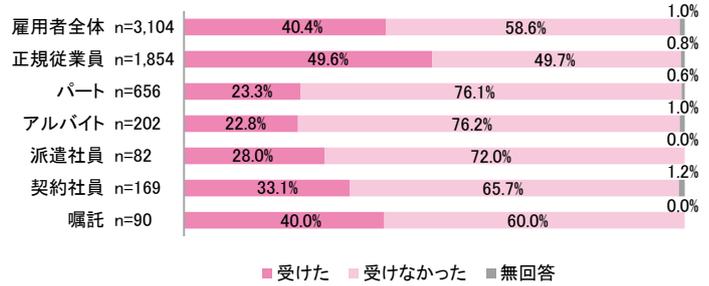
	受けた	受けなかった	無回答
正社員合計n=1,854	49.6%	49.7%	0.8%
男性・20代n=139	60.4%	38.1%	1.4%
男性・30代n=330	50.3%	49.4%	0.3%
男性・40代n=379	49.1%	50.1%	0.8%
男性・50代n=301	51.2%	48.5%	0.3%
男性・60代n=72	25.0%	70.8%	4.2%
女性・20代n=128	57.8%	41.4%	0.8%
女性・30代n=180	39.4%	59.4%	1.1%
女性・40代n=179	53.1%	46.4%	0.6%
女性・50代n=126	52.4%	47.6%	0.0%
女性・60代n=20	25.0%	75.0%	0.0%

で40.0%、「契約社員」で33.1%、「派遣社員」で28.0%、「パート」で23.3%、「アルバイト」で22.8%などとなっている (図表3)。

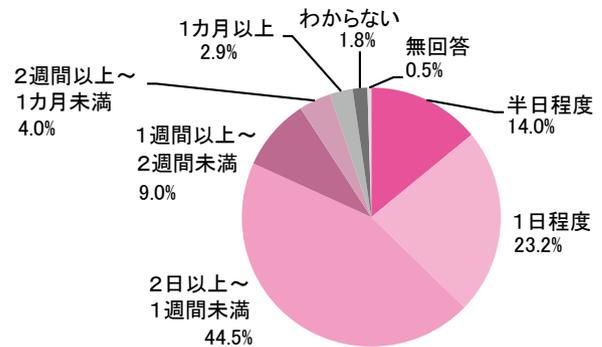
正社員のみを抜き出して、Off-JTを受けた割合を性年齢階層別に見ると、男性20歳代が60.4%と最も高く、次いで女性20歳代の57.8%、女性40歳代の53.1%、女性50歳代で52.4%、男性50歳代で51.2%、男性30歳代では50.3%、男性40歳代の49.1%などと続く。男女とも、20歳代でOff-JTを受けた割合が6割前後と他の年齢階層に比べて高く、60歳代では25%程度と低くなっており、他の年齢階層は軒並み50%前後の受講割合となっている。ただ、女性30歳代だけは、受講割合が39.4%と他と比べて低くなっているのが特徴的。この年齢階層は、子育て期と重なることから、家庭責任を優先せざるを得ずに、訓練を受けたくとも受けられない層がいる可能性がある (図表4)。

1年間のOff-JTの受講日数を見ると、「2日以上～1週間未満」の割合が44.5%と最も高く、次いで「1日程度」が23.2%、「半日程度」が14.0%、「1週間以上～2週間未満」が9.0%などの順となる (図表5)。

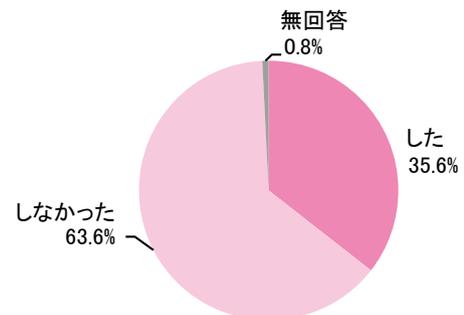
図表3 過去1年間の会社支持による教育訓練受講状況



図表5 1年間の教育訓練の日数 n=1,253



図表6 1年間の自己啓発の状況 n=3,559



自己啓発の状況

中高年になっても衰えない学習意欲

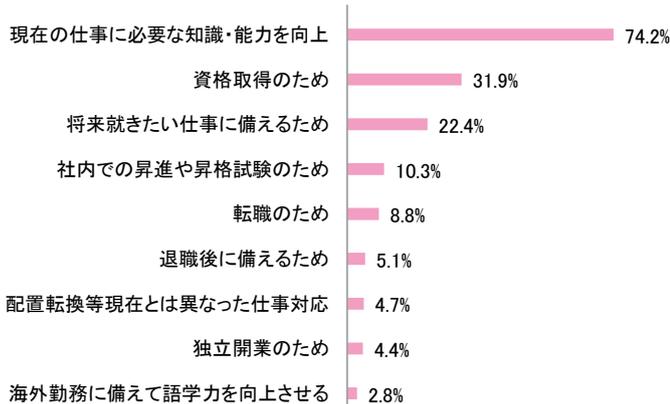
過去1年間の自己啓発の状況を自営業者なども含めた就業者について見ると、自己啓発を「した」が35.6%、「しなかった」が63.6% (図表6)。これを性年齢階層別に見ると、自己啓発を行った割合は、男性20歳代が46.3%とトップで、次いで女性20歳代の43.9%、男性30歳代の43.4%、男性40歳代で39.2%、男性50歳代では35.9%、女性40歳代では35.4%などとなっている。男女とも20歳代の学習意欲が旺盛であるとともに、40～50歳代の中高年になっても、その意欲があまり衰えていないことがわかる (図表7)。

1年間の自己啓発に充てた時間では、「10～25時間

図表7 過去1年間に行った自己啓発の有無

	した	しなかった	無回答
総数 n=3,559	35.6%	63.6%	0.8%
男性・20代 n=229	46.3%	53.3%	0.4%
男性・30代 n=412	43.4%	56.1%	0.5%
男性・40代 n=485	39.2%	60.2%	0.6%
男性・50代 n=435	35.9%	62.8%	1.4%
男性・60代 n=261	23.8%	74.3%	1.9%
女性・20代 n=264	43.9%	55.7%	0.4%
女性・30代 n=389	31.6%	67.6%	0.8%
女性・40代 n=483	35.4%	64.2%	0.4%
女性・50代 n=408	31.6%	67.6%	0.7%
女性・60代 n=193	17.6%	81.3%	1.0%

図表9 自己啓発の目的(複数回答) n=1,266



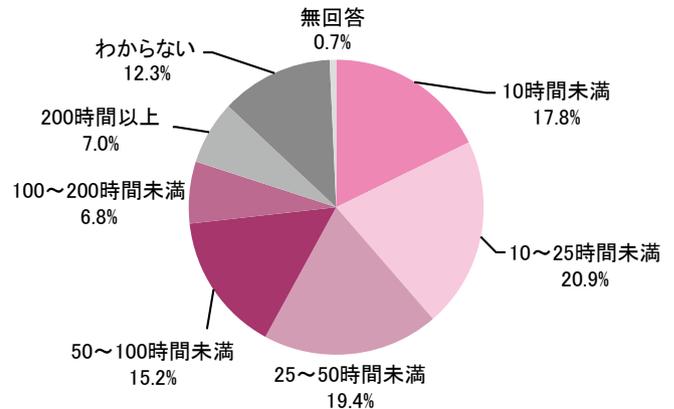
未満(20.9%)、「25~50時間未満」(19.4%)、「10時間未満」(17.8%)、「50~100時間未満」(15.2%)などの順となっている(図表8)。

自己啓発した理由(複数回答)については、「現在の仕事に必要な知識・能力を向上させるため」が74.2%で最も高く、次いで「資格取得のため」が31.9%、「将来就きたい仕事に備えるため」が22.4%となっている(図表9)。

満足度高める自己啓発

自己啓発を行った人と、行わなかった人ではどんな違いがあるだろうか。自己啓発の有無と仕事にかかわる満足度の関係を見てみよう。今の仕事の「仕事に役立つ能力や知識を身につける機会」の満足度では、自己啓発を行った人の「満足している」割合(「満足」「やや満足」の合計)が48.3%と半数に

図表8 1年間の自己啓発に充てた時間 n=1,266



届く勢いで、自己啓発を行っていない人で「満足している」とする割合の27.4%を大きく上回っている(図表10)。「今の仕事全体」の満足度でも、自己啓発を行った人の47.7%が「満足している」とする一方、自己啓発を行わなかった人ではその割合は37.5%と、10ポイントの差がついている(図表11)。企業にとっては、自己啓発を奨励することで、労働者が成長する機会を実感することにつながり、仕事全体の満足度を上げることができると言えそうだ。

5人に一人が「自身の成長のため」に働く

就業者に働いている理由を聞いたところ(複数回答)、「生計を維持するため」が72.0%で最も多く、以下「生計費の足しにするため」(29.1%)、「社会人としての

図表10 自己啓発の有無と「仕事に役立つ能力や知識を身につける機会」の満足度

		満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
自己啓発の有無	過去1年間の自己啓発をした n=1,266	16.9%	31.4%	32.0%	12.2%	6.9%	0.6%
	しなかった n=2,265	8.4%	19.0%	50.3%	12.0%	9.1%	1.2%
合計 n=3,559		11.4%	23.3%	43.5%	12.0%	8.2%	1.7%

図表11 自己啓発の有無と「今の仕事全体」の満足度

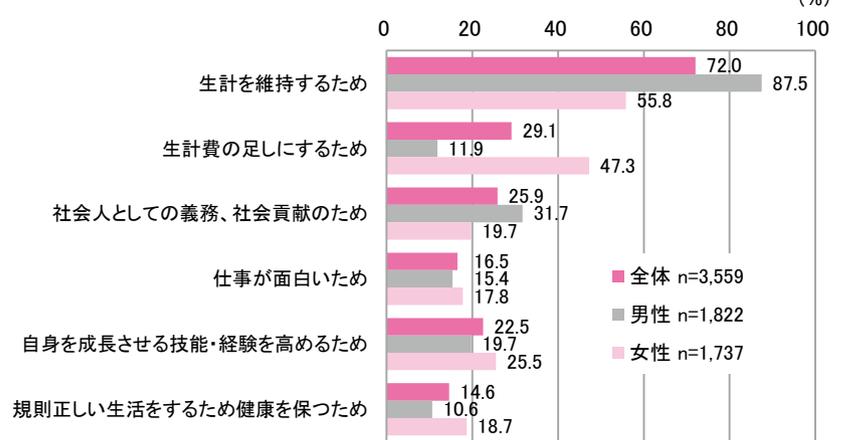
		満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
自己啓発の有無	過去1年間の自己啓発をした n=1,096	12.8%	34.9%	29.7%	14.2%	8.0%	0.3%
	しなかった n=1,982	10.5%	27.0%	36.2%	16.1%	9.4%	0.8%
合計 n=3,104		11.2%	29.6%	33.7%	15.3%	8.9%	1.3%

義務、社会貢献のため」(25.9%)、「自分自身を成長させる技能・経験を高めるため」(22.5%)、「仕事が面白いため」(16.5%)、「規則正しい生活をしたい、健康を保ちたいため」(14.6%)などの順となっている(図表12)。

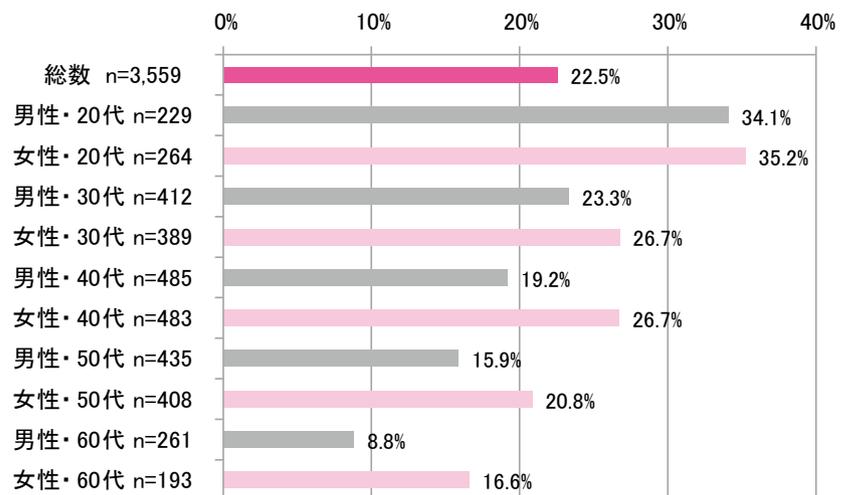
「生計を維持するため」や「生計の足しにするため」が上位に挙げられるのは当然のこととして、5人に1人以上が「自分自身を成長させる技能・経験を高めるため」と、向上心や学習意欲を働く理由に挙げているのが特徴的だ。これを性年齢階層別に見ると、女性20歳代で、向上心働く理由とする割合が35.2%と最も高く、次いで、男性20歳代(34.1%)、女性30歳代、40歳代(ともに26.7%)、男性30歳代(23.3%)などの順。どの年齢階層でも、男性に比べて女性で、向上心働く理由としている割合が高い(図表13)。

働く理由として「自分自身を成長させる技能・経験を高めるため」を選択した人は、実際に自分を高める努力を行っているのだろうか。自己啓発の実施割合を見ると、56.0%と過半数が自己啓発を行っている(図表14)。

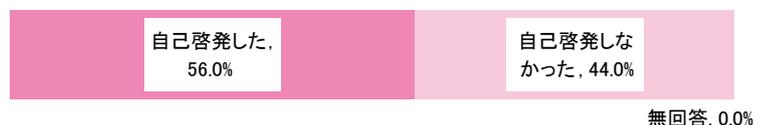
図表12 働いている理由(複数回答)



図表13 「自身の成長、技能・経験の向上」を働く理由とする割合



図表14 働く理由を「自分自身を成長させるため、技能・経験を高めるため」とした人の自己啓発の有無 n=3,559



職業能力の状況

では、勤労者の意識の面から、学ぶことや自身の能力向上について見てみよう。「第7回勤労生活に関する調査」の調査結果から、自己の職業能力の評価や学習意欲、向上心にかかわる項目を抜き出して紹介する。

そもそも、現在の自身の職業能力について、どのように評価しているのだろうか。「現在の職業能力に自信がある」かどうか聞いたところ、「自信がある」(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)とする割合は57.8%と過半数を占め、「自信がない」(「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計)とする割合(36.0%)を大きく上回っている。

男性は定年後も職業能力に「自信あり」

これは、性年齢階層による違いが大きく、男女どちらも「自信がある」割合の低い20歳代から50歳代まで、職業経験を積んで「自信がある」割合が高まる傾向を示しているのは同じだが、男性は20歳代の45.3%から、30歳代で75.6%、50歳代でピークの82.9%となっているのに対して、女性では、20歳代の41.5%から、30歳代の57.5%、50歳代の61.2%でピークを迎えており、スタートの20歳代では大きな違いは見られないものの、年齢を重ねるごとに差が開いている。また、

定年後にあたる60歳代、70歳以上での差が大きい。男性では60歳代でも職業能力に「自信がある」割合は74.5%なのに、女性では46.9%と大きな差が出ている。70歳以上でも、男性は59.9%が「自信がある」としているが、女性では27.5%となっている(図表15)。

職業能力の意識

20、30歳代の大半が向上心を

向上心にかかわる意識について、「より高い職業能力を身につける必要がある」と思うかどうか聞いたところ、「必要ある」とする割合(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)が62.4%で、「必要ない」「(「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計)の31.6%を大きく上回っている。これも、性年齢階層による違いが大きく、年齢階層が若いほど「必要ある」割合が高くなっている。「必要ある」とする割合は男女ともに20歳代が一番高く、男性で96.0%、女性で85.4%となっている。この年齢に反比例する傾向は男女とも同じだが、女性の方が男性に比べて、各年齢階層で「必要ある」とする割合の水準が低くなっている。教育訓練の対象のコアとなる20歳代、30歳代で8~9割が職業的向上心を持っている結果となっている(図表16)。

若年層ほど自己啓発時間を「長くしたい」

そこで、生活時間の過ごし方について、「自己啓発のための学習活動に費やす時間」をどのようにしたいと考えているか聞いたところ、「今のままでよい」との回答が最も高かった(52.4%)ものの、42.4%の人が「長くしたい」「増やしたい」「どちらかといえば増やしたい」の合計)と考えているのに対して、「短くしたい」「減らしたい」「どちらかといえば減らし

図表 15 自分の現在の職業能力に自信があるかどうか (%)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	自信がある	自信がない
総数 n=2,118	20.8	37.0	18.2	17.8	6.2	57.8	36.0
男性 n=949	28.7	41.6	14.1	11.8	3.8	70.3	25.9
女性 n=1,169	14.4	33.3	21.6	22.6	8.2	47.6	44.1
男性・20~29歳 n=75	12.0	33.3	37.3	16.0	1.3	45.3	53.3
男性・30~39歳 n=123	22.0	53.7	20.3	4.1	0.0	75.6	24.4
男性・40~49歳 n=154	23.4	53.2	18.2	4.5	0.6	76.6	22.7
男性・50~59歳 n=140	27.1	55.7	8.6	7.1	1.4	82.9	15.7
男性・60~69歳 n=220	38.6	35.9	9.5	13.2	2.7	74.5	22.7
男性・70歳以上 n=237	32.5	27.4	8.4	20.7	11.0	59.9	29.1
女性・20~29歳 n=82	8.5	32.9	39.0	15.9	3.7	41.5	54.9
女性・30~39歳 n=153	16.3	41.2	27.5	15.0	0.0	57.5	42.5
女性・40~49歳 n=223	10.3	46.2	24.7	16.6	2.2	56.5	41.3
女性・50~59歳 n=188	12.2	48.9	20.7	12.2	5.9	61.2	33.0
女性・60~69歳 n=258	21.7	25.2	18.2	24.8	10.1	46.9	43.0
女性・70歳以上 n=265	12.8	14.7	14.0	39.2	19.2	27.5	53.2

資料出所：図表15~19「第7回勤労生活に関する調査」

図表 16 より高い職業能力を身につける必要があるかどうか (%)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	必要ある	必要ない
総数 n=2,118	31.6	30.8	13.0	18.6	6.0	62.4	31.6
男性 n=949	35.0	33.5	12.2	14.9	4.4	68.5	27.1
女性 n=1,169	28.9	28.6	13.7	21.6	7.3	57.5	35.2
男性・20~29歳 n=75	68.0	28.0	4.0	0.0	0.0	96.0	4.0
男性・30~39歳 n=123	52.8	37.4	4.9	3.3	1.6	90.2	8.1
男性・40~49歳 n=154	40.9	48.7	7.8	2.6	0.0	89.6	10.4
男性・50~59歳 n=140	33.6	45.7	12.9	6.4	1.4	79.3	19.3
男性・60~69歳 n=220	25.0	30.0	19.5	20.5	5.0	55.0	40.0
男性・70歳以上 n=237	21.5	19.4	14.3	33.3	11.4	40.9	47.7
女性・20~29歳 n=82	58.5	26.8	7.3	3.7	3.7	85.4	11.0
女性・30~39歳 n=153	47.1	35.9	9.2	7.2	0.7	83.0	16.3
女性・40~49歳 n=223	34.1	43.0	16.1	5.4	1.3	77.1	21.5
女性・50~59歳 n=188	24.5	38.3	21.8	9.6	5.9	62.8	31.4
女性・60~69歳 n=258	21.7	22.9	12.4	34.1	8.9	44.6	46.5
女性・70歳以上 n=265	15.1	11.3	11.7	45.3	16.6	26.4	57.0

たい」の合計)との回答は2.0%とわずかだった。これは、「より高い職業能力を身につける必要がある」かどうかの意識と同様に、年齢が若いほど自己啓発時間を長くしたいと考えており、男性20歳代の58.7%、女性20歳代の65.9%が男女それぞれのピークとなっている(図表17)。

大多数が努力重視の傾向

職業能力の向上を目指して自己啓発を行うなど、自分で「努力した人ほど多くを得るのが望ましい」と思うかどうかの意識も聞いている。「努力を重視する」(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)割合は87.3%と大多数を占め、「努力を重視しない」割合(「そう思わない」「どちらかといえばそう思わな

い」の合計)の8.1%を大きく上回っている。「努力を重視する」割合は、全ての性年齢階層で8~9割と高い割合を示しており、ほとんどの年齢階層でわずかに女性の方が高くなっている(図表18)。この「努力を重視する」割合は、1999年の調査開始以来、8割台の水準で推移している。努力を重視する意識が、自己啓発など、能力向上を目指して自ら学習することの後押しとなっていると言えそうだ。

7割弱が「自ら道を切り開くべき」

「組織や企業にたよらず自分で道を切り開くべきだ」という考え方について、どのように評価するか聞いたところ、「自分で道を切り開くべきだと思う」割合(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)が68.9%と、「自分で道を切り開くべきだとは思わない」「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計)の25.0%を大きく上回った。性年齢階層別に見ると、男性20歳代が80.0%と最も高く、全般的に男性の方が女性よりも水準がわずかに高くなっている(図表19)。

[注]

「第2回日本人の就業実態に関する総合調査」は2014年1月に実施。調査結果の全体像は、JILPT国内労働情報「第2回日本人の就業実態に関する総合調査—第1分冊 本編」「第2回日本人の就業実態に関する総合調査—第2分冊 就業者データ篇」を参照。「勤労生活に関する調査」は1999年から定期的を実施。直近の「第7回勤労生活に関する調査」は2015年11月実査し、結果の全体像は9月23日の記者発表を参照のこと。

図表 17 自己啓発のための学習活動に費やす時間の増減の希望 (%)

	増やしたい	どちらかといえば増やしたい	今のままでよい	どちらかといえば減らしたい	減らしたい	わからない	長くしたい	短くしたい
総数 n=2,118	13.5	29.0	52.4	1.0	1.0	3.2	42.4	2.0
男性 n=949	13.6	28.6	52.5	1.6	1.1	2.7	42.1	2.6
女性 n=1,169	13.3	29.3	52.3	0.5	1.0	3.5	42.7	1.5
男性・20~29歳 n=75	24.0	34.7	37.3	0.0	4.0	0.0	58.7	4.0
男性・30~39歳 n=123	22.0	33.3	39.0	2.4	2.4	0.8	55.3	4.9
男性・40~49歳 n=154	21.4	36.4	39.6	2.6	0.0	0.0	57.8	2.6
男性・50~59歳 n=140	10.7	37.1	50.7	0.7	0.0	0.7	47.9	0.7
男性・60~69歳 n=220	10.0	27.7	57.3	1.8	0.9	2.3	37.7	2.7
男性・70歳以上 n=237	5.9	14.8	69.2	1.3	0.8	8.0	20.7	2.1
女性・20~29歳 n=82	22.0	43.9	30.5	0.0	2.4	1.2	65.9	2.4
女性・30~39歳 n=153	24.8	34.0	37.9	0.7	0.7	2.0	58.8	1.3
女性・40~49歳 n=223	17.0	39.0	39.9	0.9	2.2	0.9	56.1	3.1
女性・50~59歳 n=188	14.4	36.7	46.8	0.5	0.0	1.6	51.1	0.5
女性・60~69歳 n=258	8.9	24.8	60.5	0.8	0.8	4.3	33.7	1.6
女性・70歳以上 n=265	4.5	13.2	73.6	0.0	0.8	7.9	17.7	0.8

図表 18 努力した人ほど多く得るのが望ましい (%)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	わからない	努力を重視する	努力を重視しない
総数 n=2,118	55.6	31.8	4.9	3.2	3.4	1.2	87.3	8.1
男性 n=949	55.6	30.7	5.6	3.7	3.6	0.8	86.3	9.3
女性 n=1,169	55.5	32.7	4.3	2.8	3.2	1.5	88.2	7.1
男性・20~29歳 n=75	57.3	28.0	9.3	0.0	5.3	0.0	85.3	9.3
男性・30~39歳 n=123	56.1	27.6	10.6	3.3	2.4	0.0	83.7	13.8
男性・40~49歳 n=154	50.0	35.7	6.5	4.5	3.2	0.0	85.7	11.0
男性・50~59歳 n=140	46.4	40.0	5.0	4.3	3.6	0.7	86.4	9.3
男性・60~69歳 n=220	54.5	31.4	4.5	5.5	3.6	0.5	85.9	10.0
男性・70歳以上 n=237	65.0	23.6	2.5	2.5	3.8	2.5	88.6	5.1
女性・20~29歳 n=82	53.7	37.8	6.1	0.0	1.2	1.2	91.5	6.1
女性・30~39歳 n=153	55.6	37.3	3.9	1.3	0.7	1.3	92.8	5.2
女性・40~49歳 n=223	57.4	32.3	5.8	2.2	2.2	0.0	89.7	8.1
女性・50~59歳 n=188	58.5	28.7	4.8	2.7	4.3	1.1	87.2	7.4
女性・60~69歳 n=258	55.4	29.8	3.5	4.7	5.0	1.6	85.3	8.1
女性・70歳以上 n=265	52.5	34.3	3.0	3.4	3.4	3.4	86.8	6.4

図表 19 組織や企業にたよらず自分で道を切り開くべきだと思うか (%)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	自分で道を切り開くべきだと思う	自分で道を切り開くべきと思わない
総数 n=2,118	23.9	45.0	17.4	7.6	6.1	68.9	25.0
男性 n=949	27.9	43.2	16.6	8.3	3.9	71.1	25.0
女性 n=1,169	20.7	46.4	18.0	6.9	7.9	67.2	25.0
男性・20~29歳 n=75	28.0	52.0	10.7	9.3	0.0	80.0	20.0
男性・30~39歳 n=123	26.0	47.2	23.6	3.3	0.0	73.2	26.8
男性・40~49歳 n=154	24.0	50.0	16.2	7.8	1.9	74.0	24.0
男性・50~59歳 n=140	17.1	52.9	20.0	6.4	3.6	70.0	26.4
男性・60~69歳 n=220	35.0	42.3	12.3	6.8	3.6	77.3	19.1
男性・70歳以上 n=237	31.2	29.1	17.3	13.5	8.9	60.3	30.8
女性・20~29歳 n=82	25.6	45.1	24.4	4.9	0.0	70.7	29.3
女性・30~39歳 n=153	19.6	50.3	20.3	5.2	4.6	69.9	25.5
女性・40~49歳 n=223	18.4	54.3	22.0	3.1	2.2	72.6	25.1
女性・50~59歳 n=188	16.0	58.0	16.5	3.7	5.9	73.9	20.2
女性・60~69歳 n=258	24.0	39.9	18.2	9.7	8.1	64.0	27.9
女性・70歳以上 n=265	21.9	36.2	12.5	11.3	18.1	58.1	23.8